

岩見沢市・NTTグループ3社と産官学連携協定を締結 北海道大学北米ポートランドオフィスを開設

お知らせ

- ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成30年度）」の概要について
- ・平成30年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
- ・新たな「オープンアクセス方針」を策定
- ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について



■ 全学ニュース

- 1 岩見沢市・NTTグループ3社と産官学連携協定を締結
- 2 北海道大学北米ポートランドオフィスを開設
- 3 北海道大学アンバサダー・パートナー（米国）委嘱状交付式を開催
- 4 北海道大学アンバサダー及び海外同窓会長ミーティングを開催
- 6 北大フロンティア基金
- 8 国際共同教育プログラム説明会を開催
- 8 令和元年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
- 9 日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア（於ロシア連邦・ユジノサハリンスク）を開催
- 10 「第4回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催
- 11 独立行政法人日本学術振興会 平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から5名が選出
- 11 化学物質取扱講習会を開催
- 12 高等教育研修センターにて研修会を開催

■ 部局ニュース

- 13 低温科学研究所が韓国極地研究所と部局間交流協定を締結
- 14 文学院文化多様性論講座×北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学芸リカプロ）公開シンポジウム「文化多様性は何をめざすのか—ミュージアムと考える、新時代」
- 15 経済学部成績優秀者表彰式を挙行
- 15 経済学部同窓会が経済学部生への就職支援講座を開催
- 16 文系部局合同FD研修会「本学の危機対応・業務継続について」を開催
- 17 概算要求事業「フォトエキサイトニクス研究拠点—光励起状態制御の予測と高度利用—」キックオフシンポジウムを開催



岩見沢市・NTTグループ3社と産官学連携協定を締結



令和元年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行

- 18 5 研究所・センター合同で一般公開を開催
- 21 環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
- 21 薬学研究院で薬害をテーマにFD研修会開催
- 22 令和元年度薬学研究院FD講演会を開催
- 22 工学系部局で「第1回こころの健康セミナー」を開催
- 23 第50回記念時計台サロン「北大農学部—歴史と未来—」を札幌市時計台ホールで開催
- 24 スラブ・ユーラシア研究センターで「樺太・千島 戦争体験の絵」を受贈
- 25 「北極基礎市民講座—北極の不思議 もっと知ろうその魅力—」を開催

■ お知らせ

- 26 「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成30年度）」の概要について
- 27 平成30年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
- 28 新たな「オープンアクセス方針」を策定
- 28 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

■ 博士学位記授与 29

■ 学内規程 30

■ 諸会議の開催状況 31

■ 人事 33

- 34 新任部局長等紹介
- 35 新任教授紹介
- 36 新任部課長等紹介



高等教育研修センターにて研修会を開催



低温科学研究所が韓国極地研究所と部局間交流協定を締結



環境科学院で北大祭・研究施設公開を開催



第50回記念時計台サロンを札幌市時計台ホールで開催

表紙：5研究所・センター合同で一般公開を開催（関連記事18頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑦ 豊稜の水田地帯

■全学ニュース

岩見沢市・NTTグループ3社と産官学連携協定を締結



協定締結式の様子

本学と岩見沢市及びNTTグループ3社（NTT、NTT東日本、NTTドコモ）は6月28日（金）、岩見沢市自治体ネットワークセンターにおいて「最先端の農業ロボット技術と情報通信技術の活用による世界トップレベルのスマート農業およびサステナブルなスマートアグリシティの実現に向けた産官学連携協定」を締結しました。

協定締結式に先立ち、岩見沢市濱本農場において、農学研究院野口 伸教授の研究成果である自動運転技術によるトラクターの無人走行デモン

レーションが行われ、報道機関なども含め、100名近くの方が参加しました。

協定締結式では、松野 哲岩見沢市長から本協定が目指すサステナブルなスマートアグリシティの実現の説明があった後、野口教授から自動運転農機等による近未来スマート農業技術の実証に向けた取り組みについて説明がありました。

続いて、協定書への署名が行われ、西井準治理事・副学長から本協定への期待が述べられました。その後の質疑応答では、協定による取り組みの実装時期などについて数多くの質問があり、関係者の関心の高さがうかがえました。

（研究推進部産学連携課）



説明を行う野口教授



協定への期待を述べる西井理事・副学長



デモンストレーションで自動運転技術により無人走行するトラクター

北海道大学北米ポートランドオフィスを開設

本学では、6月1日（土）、昭和47年に協定校となって以来の長い交流を続けてきた、米国ポートランド州立大学内に、「北海道大学北米ポートランドオフィス」を開設し、札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年記念事業に合わせて、6月7日（金）に開所式を開催しました。

開所式には、本学から長谷川晃理事・副学長、川野辺創国際連携機構副機構長、吉村俊平理学研究院助教、植村妙菜国際URAが参加したほか、ポートランド州立大学よりプロボスト（教務担当副学長）のスーザン・ジェフォース博士、デジタルシティ・テストベッドセンター長のジョナサン・フィンク教授、ロン・ウィクザック国際部長、サリー・ムディアム国際副部

長、西芝雅美パブリックサービス研究・実践センター副所長、本学アンバサダーであるケネス・ルーフ日本学研究センター長、茅野 徹氏、本学パートナーであるガブリエル・ローゼン氏が参加しました。また、札幌市から秋元克広市長及び国際部職員5名が、札幌姉妹都市協会から福迫尚一郎会長（本学名誉教授、札幌市元助役）、ポートランド・札幌姉妹都市協会から理事2名が参列しました。

開所式では、本学及びポートランド州立大学の双方から、これまでの両学の様々なレベルにおける関係を振り返りつつ、オフィスを活用しての今後の交流深化に期待が示された後、秋元札幌市長より、本学卒業生として、またポートランドの姉妹都市の市長とし

て、オフィス開所への祝辞が述べられ、両学代表者による開所に係る合意覚書に署名がされました。同学には平成29年に横浜国立大学がランチオフィスを開設しており、このほど共同利用する形で本学がオフィスを開設することから、横浜国立大学、北海道大学双方のロゴを用いて共同製作したオフィスプレートがポートランド州立大学に贈られました。

北米ポートランドオフィスは、北米における本学の戦略的・組織的な国際連携を推進すべく、両学及び米国他機関との教職員・学生双方の人的交流支援を行うほか、北米情報収集拠点としての機能も期待されます。

（国際部国際連携課）



参加者の様子



合意覚書を持つ長谷川理事・副学長（左）、ジェフォース博士（中央）、ウィクザック国際部長（右）



参加者集合写真

北海道大学アンバサダー・パートナー（米国）委嘱状交付式を開催



前列左より、ローゼン氏、ルオフ教授、茅野氏

6月7日（金）、米国ポートランド市において、北海道大学アンバサダー、ケネス・ルオフ教授及び北海道大学パートナー、ガブリエル・ローゼン氏に対して、委嘱状の交付を行いました。

ルオフ教授はポートランド州立大学日本学研究センター長として憲法及び天皇制の研究に取り組む傍ら、日本文化・歴史に係る造詣・理解を活用してポートランドにおける日本コミュニティに深く根ざし、二国間の交流に寄与してきました。1994年～96年に本学法学部の助手・講師を務めたことをきっかけに本学との交流を続けており、現在も頻繁に来学されています。ルオフ教授からは、本学で憲法分野のトップランナーたちと共に濃密な3年を過ごせたことに対する感謝とともに、今後は北海道大学アンバサダーと

して、両学の人的交流を活性化する手伝いができれば、との意気込みが述べられました。

ローゼン氏はポートランド州立大学在籍時の2003年に交換留学生として来日し、JLCSプログラム（文部科学省日本語・日本文化研修留学生プログラム）を修了、帰国後は日本食材店兼ケータリングサービスやラーメン店を経営する一方、ポートランド州立大学日本学研究センターのアドバイサリーボードに加わり、ポートランド地域の日本コミュニティで広く活躍されています。受嘱スピーチでは、恵迪寮への滞在など人生観を変える経験を得られた本学のために、自身の留学経験をポートランド州立大学の現役学生に話すこと等で学生交流の活性化に協力できれば、との展望が語られました。

当日はポートランド州立大学からプロボスト（教務担当副学長）であるスーザン・ジェフォーズ博士、サリー・ムディウム国際部副部長、本学ポートランドオフィス担当者である座間杏里国際部プログラムマネージャーに参加いただくとともに、2016年から北海道大学アンバサダーの任にある茅野 徹氏が遙々アラスカより駆けつけてくださり、新北海道大学アンバサダー・パートナーとの親交を深めました。

本学の海外オフィスの開所に加えて北海道大学アンバサダー並びにパートナーが委嘱されたことで、本学とポートランド州立大学のみならず、その周辺の大学等との各種交流の活性化が、今後ますます期待されます。

（総務企画部広報課）



ルオフ北海道大学アンバサダー(右)と長谷川理事・副学長(左)



ローゼン北海道大学パートナー（右）と長谷川理事・副学長(左)

北海道大学アンバサダー及び海外同窓会長ミーティングを開催



6月14日（金）、本学学術交流会館にて、「北海道大学アンバサダー及び海外同窓会長ミーティング」並びに「先輩を囲んでの昼食会」を開催しました。

北海道大学アンバサダー・パートナー（HUAP）制度は、本学のグローバルネットワークを強化することを目的として、2016（平成28）年度から開始しました。留学生OB・OGや各国で活躍されている本学と関係の深い方々をアンバサダーまたはパートナーとし

て委嘱し、各国での本学リエゾンオフィスの立ち上げ、同窓会の設立、留学フェアへの参加など、様々な活動に率先してご協力をいただいています。現在その数は、アンバサダー40人、パートナー132人にのぼり、36の国と地域をカバーしています（内訳については別表参照）。今回のミーティングは、本学関係者、各国のHUAP、及び海外同窓会長が本学の国際化や他国の同窓会の活動状況について情報共有し、今後の活動のあり方等について議

論するために初めて開催したもので、13名のHUAP及び海外同窓会長が出席しました。

はじめに笠原正典理事・副学長が歓迎の挨拶を行い、続いて川野辺創国際連携機構副機構長が本学の国際化の現状等について紹介しました。

次にクリストフォラ・ハニー・ウィジャヤ ボゴール農業大学教授（北海道大学アンバサダー、インドネシアリエゾンオフィス代表、インドネシア同窓会長）が登壇し、インドネシアにお



左からルリー・メリング博士（マレーシアサワラク州泥炭研究所長）、デリック・ユー教授（フィリピンデ・ラ・サル大学、フィリピン同窓会長）、ジョエル・マルシアーノ教授（フィリピン大学ディリマン校、フィリピン科学技術省先端科学技術研究所長代理）、ジタンナ・ウォンタ氏（モンクット王工科大学トンプリ校講師、タイ同窓会副会長）、ヴィクトル・コルスノフ博士（サハリン国立大学国際関係局長、サハリン校友会会長）



左から金正憲氏（韓国民主平和統一諮問会議 江南区協議会前会長）、幾島章仁氏（ハノイ三国歯科ベトナム代表、ハノイエルム会長）、チャールズ・ヴァイラバン教授（マレーシア・サバ大学）、万榮栄教授（北京科技大学、中国同窓会長）、キョー・ナイ博士（ミャンマー教育省、副事務次官）

ける同窓会やリエゾンオフィスの設立など、アンバサダーとしての活動状況と成果について発表しました。

最後のディスカッションでは、参加者から本学の国際化に関する様々な提案が行われました。各大学が留学生獲得を競うなか、教育プログラムの質の重要性や、留学生とその家族のための充実した宿舎の必要性などが指摘されました。

ミーティング終了後に開催された「先輩を囲んでの昼食会」には本学の在学生49名が加わりました。学生は昼食を楽しみながら、HUAPや同窓会長ら先輩の在学中の経験や卒業後のキャリア形成について学びました。

一方、今回来学されたHUAPの多くは、このミーティングだけではなく、学内関係者との研究打合せや学術講演、同窓会設立のためのミーティングに参加するなど様々な交流を行いました。これにより、本学の国際交流の発展が、今後ますます期待されます。

北海道大学アンバサダー・パートナー制度は4年目を迎えました。本学の国際化の推進はもちろん、HUAP自身にも有益な制度となるよう発展していくことを目指し、順次新たな方をお招きしながら、本ミーティングを今後毎年開催する予定です。

(総務企画部広報課)

国・地域名		アンバサダー	パートナー
アジア	インド	1	0
	インドネシア共和国	2	7
	シンガポール共和国	0	1
	タイ王国	3	7
	台湾	1	1
	大韓民国	3	59
	中華人民共和国	3	11
	日本	1	0
	ネパール連邦民主共和国	0	1
	バングラデシュ人民共和国	0	1
	フィリピン共和国	3	2
	ベトナム社会主義共和国	3	3
	マレーシア	2	3
	ミャンマー連邦共和国	3	1
	モンゴル国	1	1
ヨーロッパ	イタリア共和国	0	1
	ウズベキスタン	1	2
	英国	1	0
	カザフスタン	1	0
	スイス連邦	2	0
	スウェーデン王国	0	1
	セルビア共和国	0	1
	ドイツ連邦共和国	1	1
	フィンランド	1	3
	ベルギー	0	2
北米	ロシア連邦	1	2
	アメリカ合衆国	2	3
中南米	カナダ	1	2
	コロンビア共和国	1	0
	ドミニカ共和国	0	1
	ブラジル連邦共和国	1	2
中東	メキシコ合衆国	0	1
	パレスチナ	0	1
アフリカ	エチオピア連邦民主共和国	0	1
	ザンビア共和国	1	9
	南アフリカ共和国	0	1

(令和元年7月1日現在)



クリストフォラ・ハニー・ウィジャヤ教授（ボゴール農業大学、インドネシアリエゾンオフィス代表、インドネシア同窓会長）



台湾北海道大学アンバサダー林素鳳教授（国立中央警察大学、台湾同窓会長、右から3人目）と台湾人留学生



在学学生と歓談するブラジル北海道大学アンバサダー本橋幹久氏（ブラジル同窓会長、左）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（6月30日現在）

24,489件 4,888,667,835円

6月のご寄附状況

法人等12社、個人666名の方々から14,227,765円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団青野歯科医院、独立行政法人国立病院機構帯広病院、株式会社クレタ、医療法人弘遠会、有限会社札幌庭園工業、株式会社ジェイマックスシステム、樋口会、北大土木54期 日の出会、リージョンズ株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	相澤 宏修	天崎 吉晴	天野 圭一	荒木 利和	有泉 吉泰	安齋 洋一	安藤 伸一
安藤 敬子	池田 慎	石川 祝代	伊藤 和子	伊藤 美香	井上 洋子	井上 芳郎	井原 博
入澤 秀次	岩下 通弘	岩原 義人	内田 文雄	内林 真実	緑記 和也	大久保哲之	大谷 憲夫
大原 正範	大村 丈史	大湯 淳功	奥田 英信	小田原一史	小内 透	笠井 隆文	桂田 武彦
加藤 真子	金川 眞行	金子 悟	鎌田 満広	河辺 善一	河村 美和	河本 充司	木村 宗士
工藤 勉	黒須由紀子	小林 次郎	小林 清一	小林 靖	斉藤 久	坂岡 博	坂本 大介
左合 治彦	佐藤 孝一	澤村 昌樹	三升畑元基	志済 聡子	篠田 好彦	下村 正彦	杉江 和男
杉田 弘也	菅野 直之	鈴木 貴之	須藤 和昌	瀬木 陽介	瀬名波栄潤	高桑 衣佳	高桑 利夫
武内 利直	武越 靖郎	辰巳 尚美	田中 稲藏	種井 善一	田畠 実	辻 宜勝	土屋 和子
土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦	得地 令郎	戸田 純子	礪波 一幸	富山 剛	豊田 威信
中塚 英俊	中宮 善朗	中村 楯夫	中村 徳三	成木 訓久	西田 実弘	野口 豪	野澤(堆)康次郎
長谷 由理	畠山 昌則	八角 隆一	林 卓司	久松 理一	平井 康市	深井 勇	福田 信也
福永 悟郎	藤澤 俊明	藤田 稔	保坂 実	細田 朋彦	堀川 一夫	本宿 洋介	前田 博
政氏 伸夫	町田 宗正	松原 謙一	松村 吉浩	眞鍋 尚樹	水木 伸一	三杉 康弘	三田 勉哉
皆川 一志	宮田 信幸	村上 幸夫	森本 秀平	谷地 和則	藪中 宗之	山内 清久	山口 将一
山田 勉	横井 成尚	横内 宏明	横山 考	吉井 清信	吉岡 正俊	吉田 務	吉田 広志
渡邊 伸司	渡辺 治人	王 磊					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

医療法人弘遠会，株式会社ジェイマックスシステム

（個 人）

伊藤 和子，大久保哲之，大湯 淳功，小内 透，桂田 武彦，木村 宗士，左合 治彦，武越 靖郎，中宮 善朗，野澤（堆）康次郎，長谷 由理，畠山 昌則，藪中 宗之，王 磊

感謝状の贈呈



北海道大学校友会エルム 様
（令和元年6月14日）



医療法人北農会 恵み野病院 様
（令和元年6月17日）



山下 勇 様（令和元年6月27日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

国際共同教育プログラム説明会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターと学務部では、5月27日（月）に「国際共同教育プログラム説明会」を学術交流会館小講堂にて開催しました。当日は、国際共同教育の実施に関心のある教職員約60名が参加しました。

説明会の冒頭では、高橋 彩総長補佐から本学における国際共同教育プログラム導入の経緯や現状等についての説明があり、その後、前半に本年3月に本学で導入されたジョイント・ディグリー・プログラムの基本方針の説明とジョイント・ディグリー・プログラムを実施している国内他大学の実施状況説明を行いました。後半では既に本学で導入をしているダブル・ディグリー・プログラムとコチュテル・プロ

グラムの実施者・参加者からの発表と質疑応答を行いました。

ダブル・ディグリー・プログラムとコチュテル・プログラムの実施者・参加者からの発表では、5名の本学教員と2名の本学学生から発表が行われました。教員からの発表では、国際共同教育プログラム実施の意義や実施手法の紹介などについて説明があり、学生からの発表では、参加準備に関することや参加による利点の他に、運営上の課題等についても説明がありました。質疑応答では、ジョイント・ディグリー・プログラム実施時の全学的な支援内容等に関して意見が交わされました。

国際共同教育プログラムの説明会としては、前回開催（2016年3月）以来、

3年ぶりの開催となりましたが、ダブル・ディグリー・プログラムとコチュテル・プログラム、そして新規導入のジョイント・ディグリー・プログラムの3つの国際共同教育学位プログラムの更なる進化と発展のための貴重な情報交換を行うことができました。

（学務部学務企画課）



会場の様子

令和元年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行

6月25日（火）、高等教育推進機構中会議室において、令和元年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行し、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第5回目の表彰となりました。

授与式では10名の受賞者が参加し、

長谷川晃理事・副学長、河合 靖外国語教育センター長、そして河本雅弘学務部長の列席のもと、長谷川理事・副学長から受賞者へ賞状及び図書カードが授与され、「本賞創設の意義を理解いただき、国際的な視野を持ち、今後ますます活躍していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	雫石	紗弥加
文学部	押見	はいり
文学部	松村	滯奈
法学部	牧	真由
法学部	千葉	初陽
法学部	塚本	健太
法学部	高橋	英也
経済学部	加藤	大晃
経済学部	龍嶋	史
農学部	相川	萌音



受賞者記念撮影



授与式の様子

日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア (於ロシア連邦・ユジノサハリンスク) を開催

本学は、2018年度から日本留学海外拠点連携推進事業を受託し、ロシア各地で日本への留学を促進する活動を展開しています。このたび2019年度の第1回目となる日本留学フェアを5月20日（月）・21日（火）にロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスク市において実施しました。

サハリン州では、日本留学に意欲的である高校生及び大学生が多くいると考えられるものの日本の大学への留学に関する情報量は少なく、日本の大学の良さ、日本留学のメリット等が現地学生に知られていません。そのため日本の大学への留学人数は、非常に少ない状況となっています。

今回、同州の州都であるユジノサハリンスクに位置し、本学の協定校であるサハリン国立大学及び在ユジノサハリンスク日本国総領事館の協力を得て、同大学を会場に日本留学フェアを開催し、日本からは本学のほか、東海大学、早稲田大学、近畿大学、KOYO国際学院、札幌ランゲージセンターの6教育機関が現地参加しました。

20日（月）は、フェアの開会にあたり、サハリン国立大学Svetlana Baryshnikova 副学長、在ユジノサハリンスク日本国総領事館平野隆一総領事から挨拶をいただきました。次に、在ユジノサハリンスク日本国総領事館Dmitriy Rodin 現地職員から日本の国費留学の概要について説明がありました。続いて、サハリン国立大学の学生（2名）による日本留学体験についてのプレゼンテーションが行われました。その後、日本からの各教育機関のプレゼンテーションが行われ、本学国際連携機構野田昭彦副機構長（留学フェア当時）の閉会の挨拶をもって午前の全体会が終了しました。

午後には、東海大学隈本 純教授による模擬講義が行われ、その後個別相談会を実施しました。フェアにはサハリン国立大学の学生を中心に、約120名が来場し、高校生や保護者の参加もありました。

フェア当日に実施したアンケートの結果では、短期留学に興味があるとの回答が33%あったほか、興味のある情

報として「留学後のキャリア」との回答が32%、留学先として韓国をはじめ、アジア諸国と回答した参加者が27%いたことなど、当地での留学希望者の傾向やアジアに隣接する同州の地域性と思われる特徴が見られました。こうした結果は、今後の留学フェアの内容を検討する際、活用していきます。

翌日の21日（火）には高校訪問を行いました。第2ジムナジウム、東洋ジムナジウム、第1ジムナジアムの3校を訪問し、各校で日本留学全般に関する概要説明と、参加機関（本学、早稲田大学、札幌ランゲージセンター）に関するプレゼンテーションを行いました。

本学では、引き続き、ロシアの教育機関、行政、支援機関や企業等と連携し、日本とロシア・CIS地域の学術・学生交流を促進する活動を実施していく予定です。

（国際部国際連携課）



日本留学フェア全体会



個別相談の様子



高校訪問（於：第1ジムナジウム）

「第4回 北海道大学フィンランドディ みんなで夏至祭を楽しもう!」を開催

夏至祭を祝い2016年から開催しているフィンランドディは、第4回目の開催を迎え、6月15日（土）に本学欧州ヘルシンキオフィスの主催（北海道フィンランド協会ほか共催、フィンランド大使館、在札幌フィンランド名誉領事館、札幌国際プラザ等の後援）により、学術交流会館で実施しました。今年は、日本とフィンランドの外交関係樹立100周年であり、今回は、その100周年記念行事の1つとして開催したものです。

まず、欧州ヘルシンキオフィス田畑伸一郎所長（スラブ・ユーラシア研究センター教授）の開会挨拶の後、保健科学研究所の横澤宏一教授の司会のもと、第1部では、高等教育推進機構の池田文人准教授が「なぜムーミンを大学で？」と題して講演を行いました。続いて、フィンランド北部大学合同北海道事務所元代表のユハ・トゥイスク氏から、自身の交流経験をもとに「北海道-フィンランドの交流：私の10年間」について、本学工学院の中野佑美氏から、フィンランド北部ロヴァニエミ市での留学生活についてお話いただきました。

第2部では、「今を生きるフィンランドのフォークミュージック」と題し、サルミアッキ（札幌カンテレクラブ）の皆さんが、伝統楽器カンテレの演奏と歌を披露しました。来場者の方々にも一緒に歌っていただく場面があり、楽しんで参加している様子が伝わってきました。続いて、北極域研究センターのユハ・サウナワラ助教が「フィン日関係史」と題して講演を行いました。登壇者はそれぞれの視点で

フィンランドについて講演し、約160名の来場者には、外交関係樹立100周年に際し、フィンランドについてより関心を高めていただける機会となりました。閉会後の懇親会においても、お互いの親睦を深め、活発な情報交換が行われました。

今回の開催にあたり、関連企画として、当日の午前中には、フィンランド短編映画上映会を各地で主催している玉手みどり氏の協力を得て、4本の映画を上映し、約85名の来場がありました。また、学術交流会館のロビーにおいて、北海道総合政策部航空局によるフィンエアー新千歳就航PR展示を行ったほか、協賛いただいたデモラ・グローバル社、さくらCSホールディングス株式会社、IKEUCHI GROUPが関連する本学のデモラプログラム*の紹介を行いました。本学の学生団体

である北大カフェプロジェクトには開場前と休憩時間にコーヒー等ドリンクを提供いただいたほか、北海道大学新聞には取材をしていただくなど、皆様から様々なご協力をいただきました。加えて、本学附属図書館では、7月上旬まで北図書館で関連資料展示を行いました。

欧州ヘルシンキオフィスでは今後も引き続きフィンランドディを開催していきたいと考えています。

*デモラプログラム

企業が抱える課題に対し、学生と企業が協働して問題解決に取り組むフィンランド発祥のプログラム。本学は2018年に日本で初めて導入した。

（国際部国際連携課）



田畑所長による開会挨拶



ロビーでの展示の様子



サルミアッキによる歌の紹介



フィンランド短編映画上映会の様子

独立行政法人日本学術振興会 平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から5名が選出

この度、独立行政法人日本学術振興会から、平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は、書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員等と

して、対象者約600名の中から109名が表彰者として選考されました。

本学からは右記の5名が表彰され、表彰状が授与されました。

（研究推進部研究振興企画課）

【表彰者】		
所 属	氏 名	
情報科学研究院	杉本雅則	教授
情報科学研究院	長田直樹	准教授
水産科学研究院	井上 晶	准教授
水産科学研究院	井尻成保	准教授
保健科学研究院	山本 徹	教授

化学物質取扱講習会を開催

国立大学法人北海道大学化学物質等管理規程に基づき、本学にて化学物質を取り扱う全ての人を対象とし、化学物質の適切な取扱い等を理解することにより、生じうるリスクを最小限に抑えることを目的とした「化学物質取扱講習会」を実施しています。今年度は春季開催分として7月までに札幌キャンパスと函館キャンパスにて計26回（標準版21回（内英語版2回）、中上級版5回）開催し、全体で延べ1,400人を超える受講者が参加しました。

多くの方が受講する標準版では「本

学で化学物質を扱ううえで知っておくべき事項」として、最近の事件・事故のニュース等の映像資料や、保護手袋の透過実演等も盛り込みながら、化学物質管理に関する基本的な考え方から各種法規制やルール等を説明しています。一方、主としてリピーターの教職員向けには、前年度からの変更点と話題のテーマの深掘りをする中上級版を用意しています。今回テーマとしたGHSの注意点や実験室での火災事例分析は、ベテランの皆様にも新鮮な話題になったことと思われます。いずれの

講習会に関しましても、それぞれの役割・立場に応じて、化学物質の取扱いやその指導に役立てて頂ければ幸いです。

なお、本講習会は、3年生後期に研究室へ配属される学生等を対象として秋季にも開催を予定していますので、今回受講できなかった方も含め奮って受講いただくようお願いします。

（安全衛生本部）



川上貴教教授（安全衛生本部）による講習会（標準版）



沖野龍文教授（化学物質等管理委員会委員）による講習会（英語版）



会場の様子

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、6月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

講演会「学習評価の基本」 参加者：26名

開催日：6月11日（火）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：「学習の評価」だけでなく「学習のための評価」を行うために、教員はどのような評価を行えばいいのか、学習評価の基本について考えた。授業を作り込むために必要な要素の一つである学習評価に関する基本的知識を獲得することを目的として開催した。



講演会「現代の学生理解～学生相談室から見る学生の悩みと成長～」 参加者：31名

開催日：6月20日（木）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：個性に合った対応をして、学生本来の能力を高く発揮するために、学生はどんなことに悩み、どんなことがきっかけで前に進み始めていくのかを学生相談室での実践から考えた。多様化する学生たちと授業で、あるいは授業外で付き合っていくため、教職員が理解しておくべきことについて学んだ。



研究者のためのプレゼンテーション研修【入門編】 参加者：5名

開催日：6月22日（土）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：プレゼンテーションの基本的な知識・技術・心構えを身につけるための入門研修として開催した。プレゼンが苦手な方や基礎を学びたい方のための研修で、スライドを使った口頭発表やポスター発表を行った。



ループリック評価作成ワークショップ【入門編】 参加者：12名

開催日：6月27日（木）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：ループリック評価の作成法、活用法などの基本を学んだ。ループリックの作成体験を通じて、ループリック評価導入のきっかけとなることを目的として開催した。



■ 部局ニュース

低温科学研究所が韓国極地研究所と部局間交流協定を締結

低温科学研究所は、6月24日（月）に韓国極地研究所KOPRI（Korea Polar Research Institute）と部局間交流協定を締結し、調印式を行いました。調印式は韓国極地研究所で執り行われ、同研究所からHo Il Yoon所長ら8名、本研究所からは福井 学所長ら5名が

出席しました。

韓国極地研究所は南北両極域での現場観測を精力的に推進しており、本研究所が有する基盤的技術の活用や両所の相補的な観測活動による極域観測網の構築などにより、極域科学分野の革新的な進展が可能となります。調印式

の後には共同研究推進に関する意見交換を行い、今後のさらなる連携強化の方向で一致しました。

（低温科学研究所）



協定書を取り交わすYoon所長（左）と福井所長（右）



関係者集合写真

文学院文化多様性論講座×北海道大学学芸員リカレント教育プログラム(学藝リカプロ) 公開シンポジウム「文化多様性は何をめざすのかーミュージアムと考える、新時代」

6月9日(日)、公開シンポジウム「文化多様性は何をめざすのかーミュージアムと考える、新時代」を開催しました。このシンポジウムは、本年4月に文学院の改組に伴って誕生した「文化多様性論講座」と、昨年度から活動している「北海道大学学芸員リカレント教育プログラム(学藝リカプロ)」とが共同で主催し、実施したものです。文化多様性論講座を構成する文化人類学、芸術学、博物館学という3つの学問領域の特性を活かしつつ、現代社会にとって避けて通ることのできない文化多様性という課題についての議論を深める有意義な機会となりました。

シンポジウムの冒頭では、西井準治理事・副学長と山本文彦文学研究院院長が挨拶に立ちました。西井理事・副学長からは二年目に入った学芸リカプロの成果と展望について、山本研究院長からは新設された文化多様性論講座の意義について、それぞれお話をありました。

続いて、「フォーラムとしてのミュージアム」を提唱してきた国立民族学博物館の館長・吉田憲司氏と、第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館のキュレーションを担当するなど国

際的にも評価が高いキュレーターの鷲田めろ氏に、基調講演を行っていただきました。吉田氏は、自身の研究対象であるアフリカの事例に基づきながら、コミュニティが自文化のミュージアムをつくっていく活動等を紹介し、「テンブル」ではない「フォーラム」としてのミュージアムのあり方を提示しました。鷲田氏は、現在キュレーターとして携わっている「あいちトリエンナーレ2019」のエピソードをもとに、既存のコミュニティと現代アートとの衝突や協働、そしてミュージアムの外へと活動を広げていくことの意味について論じました。新設された文化多様性論講座のキーワードのひとつは「フィールドワーク」ですが、両氏の基調講演は、そのようなフィールドでの研究と実践が重要であることを浮き彫りにするものだったと言えるでしょう。

さらに両氏の講演を受け、新講座から3名の本学教員が登壇し、コメントを加えました。芸術学研究室の谷古宇尚教授は、西洋に由来する美術史という学問が、中心的な価値や文化を否定なく際立たせてしまうという性質を指摘し、あり得たかもしれない美術史、もうひとつの美術史の可能性を問いま

した。文化人類学研究室の小田博志教授は、北インドで目撃した農法に着目しつつ、単一の作物だけを育てるモノ・カルチャーと、文化的な画一性としてのモノ・カルチャーとに共通する脆弱性を指摘しました。博物館学研究室の佐々木亨教授は、ここまで論じられてきた価値の多様化や対話といった論点が、ミュージアムをめぐる近年の議論や関連法規にも実は登場していることを紹介し、現代の日本社会とミュージアムにおける文化多様性の問題に改めて注意を促しました。

最後に、文化多様性論講座の鈴木幸人准教授の司会のもと、登壇者全員によるパネルディスカッションが行われました。ここでは、コミュニティのよりよい存続のために必要な多様性のあり方や、生物多様性と文化多様性との共通点など、幅広い話題が登場しました。開催日が大学祭の最終日にあたっていたこともあり、来場者層はまさに多様でしたが、ディスカッションの最後には多くの質問が寄せられ、本シンポジウムへの関心の高さをうかがうことができました。

(文学研究院)



西井理事・副学長による挨拶



吉田氏による基調講演



鷲田氏による基調講演



パネルディスカッションの様子



会場からの質問に答える吉田氏(左)



新講座を代表して3人の教員が登壇

経済学部成績優秀者表彰式を挙行



本年度の受賞者

7月4日（木）、経済学部会議室において、経済学部「成績優秀者表彰制度」及び「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績

を修めた学生の中から、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考・表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。今年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が受賞しまし

た。

また、「英語力ブラッシュ・アップ・プログラム」は、英語力向上のための継続的・自発的な取り組みに対し助成を行うとともに、TOEIC・TOEFL等の外部試験において、そのスコアの向上が特に顕著であった者に対し、特別表彰を行うものです。今回は4年次学生1名が受賞しました。

表彰式では、平本健太経済学部長が受賞者に表彰状と副賞を手渡し、祝福の言葉を述べました。引き続き行われた懇親会では、受賞者と関係教員が親睦を深めました。経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取り組みを行っていく予定です。

（経済学部）

経済学部同窓会が経済学部生への就職支援講座を開催

経済学部同窓会は、今年度から在学生を同窓会組織に加えたことで、在学生の学業及び就職への支援を経済学研究院・経済学部とともに強力に推進していく方針を掲げました。まずはその一環として大手人材広告企業の株式会社マイナビと共同で、主に3年生を対象にインターンシップ参加に向けての準備講座を企画しました。経済学部の授業の一環として2回、授業以外で1回（法学部同窓会との共同開催）講座を開催したところ、延べ130名程の経済学部生が参加しました。就職活動が秒読みに入ってきた3年生にとっては、就職を身近に感じる実践的な講座

内容となり、参加者たちには大変好評でした。

今後3年生向けに、秋にも学部OB・OGを招いての意見交換や就活本番対策セミナーなどを実施する予定です。また1,2年生に向けても「低学年キャリア支援講座」を開催し、就職への漠然とした不安や情報不足を解消し、サポートしていきたいと考えています。

経済学部同窓会は経済学研究院・経済学部と一体となって、今後も在学生・卒業生と共同で、活動を推進していきます。

（経済学部）



就職支援講座の様子

文系部局合同FD研修会「本学の危機対応・業務継続について」を開催

文系部局合同企画として、6月14日（金）、人文・社会科学総合教育研究棟W409室にてFD研修会「本学の危機対応・業務継続について～部局版マニュアル作成に当たって～」を開催しました。

当日は、講師として産学・地域協働推進機構の山崎淳一郎教授（日本危機管理士機構員・危機管理士1級）をお招きし、質疑応答を含めて約1時間にわたり、危機対応と業務継続について説明していただきました。内容は、Ⅰ. 危機対応と業務継続、Ⅱ. 部局版マニュアルの作成に当たって、Ⅲ. 札

幌地域以外の拠点でのマニュアル作成に当たっての留意点、Ⅳ. 危機対応・事業継続マネジメントの4節に分けられ、特に本学の施設建物のほぼ中心区域である文系建物での役割など災害時の危機対応について言及がありました。

また、現在、文系部局では共通建物に関わる「防災マニュアル」を作成する準備を進めており、今後プロジェクトチームを発足し検討を行うこととしていますが、講師の山崎教授には、講義前の時間帯を利用し、文系部局の施設に特有の事情（研究棟が渡り廊下で

繋がり全体として一つの建物となっている点や講義室として人文社会科学総合教育研究棟と軍艦講堂を共有している点など）を目視で確認いただき、避難行動に影響を及ぼす可能性がある箇所などを直接説明していただきました。

文系部局合同という初の試みとして本FD研修会を実施しましたが、各部局から教職員71名が参加し、今後取り組むべき方向性の示唆が得られた有意義なものとなりました。

（文系部局）



講師の山崎教授（右奥）



質疑応答の様子



講義で用いた資料

概算要求事業「フォトエキサイトニクス研究拠点—光励起状態制御の予測と高度利用—」キックオフシンポジウムを開催



参加者集合写真

本学の機能強化促進を目的とした概算要求事業「フォトエキサイトニクス研究拠点—光励起状態制御の予測と高度利用—」が新規採択され、本年度の活動開始にあたってのキックオフシンポジウムを4月18日（木）に理学部大講堂にて開催しました。

本事業では、申請部局である理学研究院と遺伝子病制御研究所が中心となり、連携部局として情報科学研究所・地球環境科学研究所・薬学研究所・先端生命科学研究院・工学研究院・総合化学院・医学研究院・北海道大学病院・電子科学研究所・触媒科学研究所が参画し、Society5.0における環境・エネルギー・医療の新技術創出と新産業育成のコアとなる北大フォトエキサイトニクス研究拠点の形成を目指します。計算化学・情報科学の技術に最先端顕微鏡に基づくイメージング技術を組み合わせることにより、物質の励起状態を合理的理論に基づきマネジメントする「フォトエキサイトニクス」を実現し、光環境エネルギー技術の創成と光診断、光医療へと応用展開します。ここでいう「エキサイトニクス」とは、物質励起状態の設計・制御・利用を指す新しい概念です。

シンポジウムでは、事業代表者である武次徹也教授（理学研究院・総合化学院長）、及びもう一つの申請部局の

代表である村上正晃教授（遺伝子病制御研究所長）による事業概要説明に続いて、居城邦治教授（電子科学研究所）、小西克明教授（地球環境科学研究所）、佐藤敏文教授（工学研究院）、小川美香子教授（薬学研究院）によって最新の研究成果と拠点内での連携体制が示されました。活発な研究討論に加えて、今後の研究計画と本学内の部局間連携体制についての議論がなされました。また国内外の大学、研究所、民間企業との連携拡大に向けた試みについても最新の状況が紹介されました。



武次教授による事業概要説明

シンポジウム終了後は、総合博物館1階ホールに移動し、意見交換会を開催しました。武次教授、村上教授の挨拶に続いて、西井準治理事・副学長に本事業に関する期待の言葉をいただき、秋田弘俊副学長・北海道大学病院長の乾杯で開会しました。シンポジウムに続いて活発な情報交換が行われ、参加者は大いに懇親を深めることができました。最後に、門出健次先端生命科学研究院長の閉会挨拶により、意見交換会は終了しました。

今後5年間、本学が強みとする研究分野である化学・基礎医学・臨床医学・環境科学を有機的に融合し、世界に冠たる「フォトエキサイトニクス研究拠点」を形成し、新しいコンセプトを世界に発信するための学術論文の発表とエキサイトニクスによる新技術の社会実装を推進します。

（理学研究院・遺伝子病制御研究所）



村上教授による事業概要説明



居城教授（左上）、小西教授（右上）、佐藤教授（左下）、小川教授（右下）による研究発表

5研究所・センター合同で一般公開を開催

創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所及びスラブ・ユーラシア研究センターは、北大祭期間中の6月8日（土）に合同で一般公開を開催しました。当日は、天候にも恵まれ、5研究所・センター合わせて5,097名が来場しました。北キャンパスエリアでは、北18条門から創成研究機構棟まで運行（逆方向は、電子科学研究所から北18条門）のペロタクシーが大人気で、790名の方が乗車されました。当日は、子供だけでなく大人も（スタッフも）楽しい一日を過ごすことができました。

（創成研究機構、低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、
スラブ・ユーラシア研究センター）

創成研究機構

今回で第5回目となる「創成研究機構一般公開」を開催しました。今年も学内外の様々な組織にご協力いただき、サイエンス・トーク1件、展示6件、見学&体験ツアー2件を実施しました。当日は天気にも恵まれ、過去最多の1,300名の方にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。

創成科学研究棟1階レストランポブラで実施したサイエンス・トーク「見えないものを観る：触媒反応シミュレーションの世界」では、触媒科学研究所の長谷川淳也教授から、クイズも交えながら、普段は想像することが難しい化学反応、触媒の世界について分

かりやすく紹介いただきました。

エントランスホールでは、インフルエンザなどの人獣共通感染症や、吸水性ポリマーや世界最強のゲルなどの材料、最先端機器の測定技術、化学反応創成研究拠点（ICReDD）などの展示を通して、本学の様々な研究分野について学び、体験していただきました。各ブースでは、終了時間ぎりぎりまで夢中で実験・観察をする子どもたちの姿が見られました。また、読売新聞社による平成を振り返るパネル展も実施しました。毎年恒例のクイズラリーでは、クイズ正解者に贈られるオリジナルグッズ「未来ノート&クリアファイ

ル」500個が、終了前に無くなってしまふほど大好評でした。

見学&体験ツアーとして、「はやぶさ」のサンプル分析を行った「同位体顕微鏡」見学ツアー、触媒科学研究所の研究支援技術部によるガラス工作体験を実施しました。

来場者アンケートでは、「子供にもわかりやすい内容で、親子で楽しめた」「いろいろな実験が楽しかった」「来年も楽しみにしています」といった嬉しいご意見をたくさんいただきました。創成研究機構では、今後も市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。



展示&体験コーナー



「高分子を研究しよう」コーナー

低温科学研究所

低温科学研究所では、子供も楽しめる企画から、比較的高度な実験・展示、さらに、日常では体験できないマイナス50℃の南極疑似体験まで、8件の企画を実施しました。参加型の実験・体験では、子供から大人まで、真剣かつ和やかに取り組んでいました。また、マイナス50℃の南極疑似体験では、超低温を体感するとともに、南極の水床コアを見ていただきました。さらに、展示コーナーは、熱心に質問される方、笑顔で楽しむ方で溢れ、終日大盛況でした。

当日は開始時刻前に多くの方が玄関前に並び、幸先のよいスタートとなりました。当研究所では、5研究所・センターが合同で実施しているシールラリーに加えて、北大祭で実施したスタンブラリーにも参加したため、多くの方にお越しいただけたようです。一般公開は1日のみでしたが、子供連れの家族、小学生・中学生・高校生等、約1,400名の方が来場されました。

回答いただいたアンケートでは、「とても楽しかった。彗星の色がおもしろかった。彗星を生で見てみたい」「実際に南極で活動されている方の言葉はとても重みがあり、心に響く説明が聞けたのが嬉しかった」「自分が今まで思っていた事と事実が違ったりして驚いた。たくさん知らない事を知れてためになった。今後も来たい」など多くの嬉しい感想をいただきました。

その他、NHKの連続テレビ小説「なつぞら」で、夕見子役を演じる俳優の福地桃子さんが大学祭でのトークショーに先立って低温科学研究所を訪

れました。福井 学所長の案内でマイナス50℃の低温室を見学し、「夕見子が生まれた頃に、中谷宇吉郎博士が人工雪の作製に成功した」という説明を聞いて、大変感心していました。

今回の一般公開では、実験や展示等を通して、多くの市民の皆様到低温科学の面白さを知っていただくことはもちろん、私達も研究の内容を分かりやすく伝えることの重要性を再認識する貴重な機会となりました。アンケート結果を踏まえ、来年度もより多くの方々に楽しんでいただけるように工夫して参ります。



「彗星の尾を実験室で再現してみよう」の様子



「南極・北極・世界の氷河・氷床を学ぼう」の様子

電子科学研究所

電子科学研究所の一般公開は、来場者数が1,332名（受付集計）となり、研究所棟内外の展示ブースは常に多くの来場者で賑わっていました。来場者の内訳として、保育園・小学生の親子連れが8割と最多でしたが、50代以上の方も2割と多く、幅広い年齢層の方に当研究所をアピールする良い機会になりました。

一般公開では、当研究所で行っている「光・物質・生き物・数理・環境」という5つの研究テーマに関する、16の体験型展示と2件のサイエンス・トーク（市民講座）を行いました。毎年人気を集めている-196℃の液体窒素で凍らせたバナナで釘を打つ体験や「へんてこ生物大集合」に加え、「ビー玉顕微鏡で小さな世界をみてみよう!」や「超伝導と磁石の不思議!!」といった専門的な実験が人気でした。また、「安全で長持ちな“究極の核融合炉”」を最大限活用するため

の最後のミッシングピース? 高効率太陽電池」(石橋 晃教授)、「時を刻む脳~生命が24時間のリズムを生み出すしくみ~」(榎木亮介准教授)というテーマで開催した午前中のサイエンス・トークでは、朝の比較早い時間に開催したにも関わらず、専門家の方から小学生まで、幅広い年代の方が専門的な話に耳を傾けていました。特に、石橋教授は太陽のエネルギーをどう利用していくべきかをわかりやすく説明され、次の世代に託すべき未来について考えさせられました。榎木准教

授の体内時計に関する講演はとてもわかりやすく、沢山の方の興味を引き、多くの質問が寄せられました。

来場者アンケートでは、「大人でも十分楽しめました」「来年もまた来たいです」という喜びのコメントとともに、「ペロタクシーは混んでいたので利用できなかった」といった、一般公開をより良くするためのご意見もいただきました。いただいたコメントを活かし、来年度は更に電子科学研究所の研究を伝えられるように改善を行います。



サイエンス・トークの様子



人気の液体窒素を使った実験

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所の一般公開は今年で8回目の開催となりました。好天に恵まれたこともあり、延べ557名の方々にご来場いただきました。生命科学の最先端研究を紹介する「サイエンストーク」では、3名の先生がそれぞれ「ハエと一緒に薬さがし〜抗がん剤探しの旅〜」「モデル生物ー医学・生物学の小さな役者たち」「正常細胞ががん細胞を駆逐する！」というタイトルで講演を行いました。一般の方々には、なかなか聴く機会のない生命科学の最先端のトピックに、質疑応答や恒例のクイズコーナーも大いに盛り上がりしました。

「体験学習コーナー」では8研究室が研究室を開放し、マウスの全身切片作成や、生きたがん細胞・iPS細胞や染色標本の顕微鏡での観察などを体験していただきました。人数制限のある体験学習は早々と満員御礼となり、来場者の方々も日常では出来ない体験を楽しまれたようです。また、「パネル展示コーナー」では3研究室が展示し

ました。ここでは現場の研究者と対面で研究内容についてのレクチャーが行われました。

一般公開は、私たちにとって「アウトリーチ活動」の一環でもあり、多くの市民の皆様に日頃の研究成果を公開し、当研究所の社会的な役割を広く認識していただくことは重要な責務であると考えております。また、将来の研究人材の育成、最先端研究への理解を深めるという観点から、4年前から当研究所の一般公開は対象年齢をやや上げて、中学生・高校生以上に科学や研究の面白さや重要性を実感してもらうことを目指しています。そのため、来場者を実際に各研究室の中までご案内



サイエンス・トークの様子

し、研究内容やその進め方について対話・実践形式で紹介しました。来場者から寄せられた感想の中には「研究者を目指したい」「子どもをこの道に進ませたい」というものもあり、研究の難しさや重要性、その先にある達成感について、多少なりとも伝えることが出来たのではないかと考えています。一方で、小学生やより小さなお子様連れの方々には内容が少し難しかった面もあるようですが、家にも小学校にもない珍しい実験装置の数々が小さな来場者には非常に好評でした。来年以降も、一般の方々に幅広く楽しんでいただける一般公開を開催するよう努めていきたいと思ひます。



体験学習コーナー

スラブ・ユーラシア研究センター

スラブ・ユーラシア研究センターは、「もっと楽しい！スラブ・ユーラシア」と題し、一般公開を行いました。今年は晴天に恵まれて北大祭全体に人が大勢集まったこともあり、過去最高を更新した前年度（469名）の来場者を上回る、延べ508名の方にお越しいただきました。

当センターでは、センタースタッフによる最新の研究成果に関する展示とサイエンス・トークを行い、大人から子どもまで楽しめるスラブ・ユーラシア地域の小物・工芸品の展示を行いました。例えば、ユーラシア各地で古くから遊び道具に用いられてきた羊の距骨を使用したモンゴルの占いや、サイエンス・トークと連関させてサハリン関係の映像資料の上映を行いました。また、昨年度同様、本年度もロシアとウクライナ、ウズベキスタン、そしてロシアの少数民族ニブフの民族衣装をトルソーに着せて立体的に展示しました。スラブ・ユーラシアの観光地を背

景にした顔出しパネルも設置し、来場いただいた多くの方から好評いただきました。

サイエンス・トークは、高橋美野梨助教による「開発とグリーンランド独立：いま、北極で起きていること」と、岩下明裕教授及び釧路公立大学の中山大将講師による「ゴールデンカムイのサハリン島」の2本立てで行われました。昨年はロシアをテーマに、その来し方と現在をめぐるトークが展開され、ロシアという一国の奥行きを知る構成でしたが、今年はスラブ・ユーラシア地域の広がりを知る機会となりました。高橋助教は、近年の気候変動に伴い活況の様相を見せる資源開発産



展示会場の様子

業と、それを下支えにして独立を果たそうとする北極の島グリーンランドの「いま」を解説しました。岩下教授及び中山講師は、日露戦争後の北海道を舞台に始まり、いまやその舞台を樺太にまで広げたマンガ『ゴールデンカムイ』を導きの糸としながら、樺太・サハリンの歴史を解説しました。サイエンス・トークが終わった後も、質問に並ぶ人がたくさんいらっしゃり、一般公開は盛況に終わりました。

本行事は5研究所・センター合同一般公開の枠組の中で行われましたが、幹事役を務めた電子科学研究所をはじめ、共催した他の研究所に深く感謝申し上げます。



サイエンス・トークの様子

環境科学院で北大祭・研究施設公開 「知っておきたい環境科学」を開催

環境科学院では、6月8日（土）・9日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催しました。

13回目の開催となった今回は、環境科学の実験の一部を14のテーマで体験する「環境科学を体験しよう」、環境科学院の学生や教員の活動を紹介する「環境科学院ってどんなところ？」などの企画が行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から1,270名以上の親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方などが訪れ、体験型の研究施設公開を楽しめました。

来場者にアンケート調査を実施した

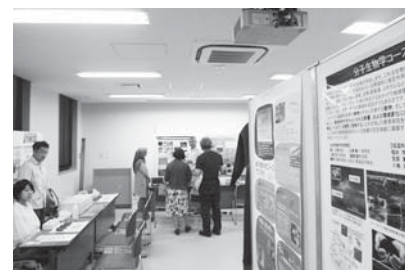
ところ、「わかりやすく生き生きと説明してもらい、科学が身近に感じた。研究に対する愛情を感じた」「色々な実験が面白かった。子供も楽しめる企画が多かった。来年も参加したい」などの高い評価をいただきました。



環境科学の現象や実験を見学する来場者

今後も、企画の内容に改善を加え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。

（環境科学院）



環境科学院のコース紹介の様子

薬学研究院で薬害をテーマにFD研修会開催

薬学研究院では、6月24日（月）、臨床薬学講義室において、本年度第1回FD研修会を薬学部2年次「薬学概論」の講義を兼ねて開催しました。今回のテーマは、薬学関連の教育・研究を担う薬学研究院の教員にとって大変重要な「薬害」で、本学薬学部OBの東京理科大学薬学部講師の佐藤嗣道先生に、約3時間にわたってご講演いただきました。

佐藤先生はご自身がサリドマイド被害者であり、また、医薬品リスク管理及び社会薬学を専門とする研究者であります。本講演では、その両者の立場から、薬害の歴史、要因、社会的な問題と現状、さらに、いかにしてそのリスクを管理すべきかについて、ご自身

の考えを交えながらお話いただきました。サリドマイド禍、スモン、血液製剤等によるエイズ感染、ウイルス性肝炎感染など、これまで我が国において発生した薬害をテーマとして、科学的データと客観的事実に基づいて大変わかりやすくご説明いただきました。ご講演を通して、ドイツや日本で多数の被害者が出たサリドマイド禍を米国では行政の適切な対応でほぼ未然に防ぐことができたこと、その事実にもかかわらずその後も不適切な企業や行政の対応が新たな薬害を発生させ、あるいは被害を拡大させたことなどをよく理解することができました。薬害を起こすのも防ぐのも人であることを肝に銘じ、薬学に携わる者は教育・研究に

取り組まなければならないことを改めて学ぶ機会となりました。

以上のように、薬学研究院の教員にとって、またこれから薬学を学ぶ2年次学生にとっても、大変意義深いFD研修会・講義となりました。

（薬学研究院）



講演する佐藤先生と熱心に耳を傾ける参加者

令和元年度薬学研究院FD講演会を開催

6月26日（水）、薬学部臨床講義室において、令和元年度の薬学研究院FD講演会を開催しました。札幌学院大学准教授の齊藤美香先生をお招きし、「多様な背景をもつ学生への理解と対応」と題した講義を行っていただきました。

本学に入学してくる学生は一般に学力レベルが高く、特に薬学部へ入学する学生の成績は非常に高くなっています。しかしながら一部の学生は、就学中に問題に直面し、卒業できなくなる学生も出ています。このような状況のもと、齊藤先生の講演は我々教員にとって関心が高く、タイムリーな講演となりました。まず、問題を抱える学生の一般的な気質、行動パターンなどについて解説がありました。問題を抱える学生とどのように関わって行くべ

きか、学生支援に3階層モデル、援助要請行動のプロセスと関わり、自殺の背景：対人関係理論、介入の時期と特徴（初期型、失速型、突発型など）、マズローの欲求階層説などを中心に解説されました。

後半は、発達に特性・偏りをもつ学生の対応に関して講演いただきました。発達障害の用語に関する説明、DSM-5、ASD、SLD、ADHD、自閉ス



講師の齊藤先生

ペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症などについて解説があり、教員としてどのように対応すべきか、適切なアドバイスをいただきました。

今回の講義内容は教員の関心も高く、質問も沢山寄せられ、活発な意見交換が行われました。

（薬学研究院）



講師の説明を熱心に聞く参加者

工学系部局で「第1回こころの健康セミナー」を開催

工学研究院、情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、年2回「こころの健康セミナー」を開催しています。

6月28日（金）、工学研究院B31講義室において、工学系部局なんでも相談室カウンセラーである石原一人氏（合同会社メンタルアシスト北海道・職業カウンセラー）による、本年度第1回目の「こころの健康セミナー」を開催しました。

今回のセミナーは教職員を対象として、メンタル不調に対する「気づき」を高めることを目的に、「カウンセラーが、ご質問にお答えします」と題

して、事前にアンケートを実施し、取り上げて欲しいテーマと質問を募集しました。

セミナーには、19名の教職員が参加し、アンケートの回答結果を基に、要望の多かった「うつ病」「適応障害」「発達障害」についての解説、質疑応答が行われ、参加者はメンタルヘルスについての理解を深めました。

終了後のアンケートでは、「実際の質問に回答いただく形式で分かりやすかった」「具体的対応方法が参考になった」「事前アンケートや具体的事例の解説という形式はよかった」「こころの健康について関心が深まった」

等の感想が多く寄せられました。

工学系部局では、今後も「こころの健康セミナー」を開催する予定です。

（工学研究院、情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



セミナー風景

第50回記念時計台サロン「北大農学部歴史と未来」を 札幌市時計台ホールで開催

農学研究院では、北海道新聞社編集局との共催で、公益財団法人札幌国際プラザ、一般社団法人札幌農学同窓会、北海道の後援を受け、著名な卒業生や現役の教育・研究者をお招きして、毎偶数月に市民へ向けた講演を時計台サロンとして、札幌市時計台ホールで開催しています。今回の時計台サロンは第50回記念として、前農学研究院長である横田 篤教授と、今年度より新たに農学研究院長に就任された西邑隆徳教授の新・旧研究院長により、「北大農学部歴史と未来」をテーマに、これまでの北大農学部の軌跡と今後の展望について、およそ2時間にわたり講演いただきました。会場となった時計台ホールには、約80名の方々がお越しになりました。

18時の時計台の鐘の音を皮切りに、司会の農学研究院久田徳二客員教授よ

り、2012年から始まった時計台サロンの歩みについて説明があり、講演者の紹介の後に、講演が始まりました。はじめに、今年の3月まで2期4年間にわたり研究院長を務められた横田教授より、「北大の源流－札幌農学校」と題して、ウィリアム・スミス・クラークの来札に始まる札幌農学校の開校から今日の北大に至るまでの歴史と、日本の大学制度の変遷の中で本学がどのように発展を遂げてきたのか、またそこに農学部がどのような役割を果たしてきたのか、スクリーンで時代の流れを追いながら、詳しく且つわかりやすく、紐解かれました。

続いて、現研究院長の西邑教授から、就任の挨拶と自己紹介に続き、「農学を築いた先達たち」と題して、畜産分野に焦点を当てながら、橋本左五郎氏をはじめとした農学部の卒業生

たちの業績と、北海道のみならず日本の畜産界を牽引し、人々の「食」へも多大に貢献してきた先達たちの研究について、自己の研究に脈々と繋がっているという驚きと感動とともに熱く語られました。また先達たちが当時描いた農業の未来にも思いを馳せながら、農工連携やスマート農業など、これからの北大農学部の展望や農業の未来についても触れられました。

今回の時計台サロンでは、旧札幌農学校演武場である時計台を舞台に、新旧の農学研究院長それぞれの視点から、札幌農学校から歩んできた農学部の歴史とこれからの未来が語られ、一般の方々にも興味深く聴講していただくことができ、第50回の節目として記念すべき特別な講演会となりました。

(農学研究院)



横田前研究院長による講演



西邑研究院長による講演



会場の様子

スラブ・ユーラシア研究センターで「樺太・千島 戦争体験の絵」を受贈

昨年、NHK札幌放送局の戦後73年プロジェクトとして、視聴者から寄せられた樺太・千島戦争体験の絵をもとに取材された内容が、夕方のローカルニュース番組「ほっとニュース北海道」で放映されました。

これらの絵は、樺太・千島でのソ連との戦争、その後のソ連統治下の生活を体験した35人の視聴者が、樺太・千島各地での体験を思い出して新たに描いたもので、子供の目で見えた戦争とその後の暮らし、北海道に船で渡った時のことを鮮やかに伝えてくれる貴重な資料となっています。また、その中には、北海道在住の方だけでなく、神奈川県や大阪府など、遠方から絵を寄せられた方が何人もいます。

戦争体験を語ることができる人が少

なくなる中、番組に寄せられた絵を後世に継承できるようにしたいと番組の企画時にNHKから相談があり、スラブ・ユーラシア研究センターでは、6月24日（月）にそれらの絵と、それに付された手紙、メモ等の寄贈を受けました。

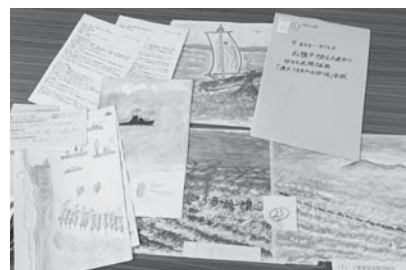
番組内では10回にわたり絵と思い出



NHK札幌放送局小形修一放送部長（右）から寄贈を受ける仙石 学センター長（左）

が紹介されましたが、すべてを紹介できたわけではありません。スラブ・ユーラシア研究センターでは、将来にわたってこの絵を保存・公開し、活用して参ります。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



寄贈された戦争体験の絵の一部

「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」を開催

6月21日（金）、北極域研究共同推進拠点*主催による「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」第1回を東京にて開催しました。本講座は内容を北極にフォーカスし、それを網羅する市民講座としてはこれが初めての開催となりました。今年度6回開催し、1回2テーマで計12のテーマを挙げて行うもので、これらを全部聴講すると、現在注目されている北極に関する分野について、殆ど全ての課題の理解が深まるプログラム構成になっています。第1回目として開催した本講座では、北極の「地理と歴史」と「陸の生態系」をテーマとしました。参加者からは専門的な内容も含めた質問が寄せられ、活発な質疑応答

が行われました。

北極は地球温暖化の影響を顕著に受け、海氷減少や生態系の変化、更には海洋や大気を通じて地球規模の異変を起こす可能性があります。一方では、このような環境変化は北極海航路や石油・天然ガス開発を促進させるとともに、環境汚染、動植物の生態系や人間社会への影響、それに国家間の摩擦などを引き起こす可能性もはらんでおり、持続可能な社会・産業活動に向けて北極諸国だけでなく周辺国も巻き込んだ国際協力が必要となっています。

以上のような状況を受け、本講座では自然科学だけでなく工学、人文社会科学を含む第一線の専門家・実務家より最新情報をわかりやすく解説し、北

極の将来に向け新たな視座で見つめていただきながらその魅力を知ってもらうことを狙いとしています。今後もご期待いただきたいと思います。

*北極域研究共同推進拠点

国立大学法人北海道大学北極域研究センター（中核施設）、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際北極環境研究センター（連携施設）、国立研究開発法人海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター（連携施設）の3機関による連携ネットワーク型の共同利用、共同研究拠点。

（北極域研究センター）

北極基礎市民講座 ～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～

<プログラム>

- 第1回2019年6月21日（金） 地理と歴史、陸の生態系
- 第2回2019年8月9日（金） 海の生態系、大気
- 第3回2019年10月9日（水） 海洋、氷河・氷床
- 第4回2019年12月3日（火） 北極ロシア資源開発、北極北欧資源開発
- 第5回2020年1月27日（月） 北極海航路とその利用、エネルギー輸送
- 第6回2020年3月27日（金） ガバナンス、人間と社会

<申込・詳細>

<https://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/news/22012/>



第1回講座の様子

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成30年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成30年度分の概要をお知らせします。

平成30年度における役員の報酬等の支給状況

	役員 8 人（法人の長，理事（5 人），監事（2 人））
年間報酬等の総額	118,698千円

平成30年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注1）	平均年齢	平成30年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	977人	41.3歳	5,612千円
教育職員（大学教員）（注2）	1,143人	49.1歳	8,714千円
医療職員（病院看護師）	397人	40.3歳	5,484千円

注1）「比較対象人員数」は、平成31年4月1日現在、在職している常勤職員（平成30年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

注2）「教育職員（大学教員）」は、年俸制教員を除く。

総人件費

区 分	平成30年度	平成29年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 30,105,805	千円 29,940,796	千円 165,009	% 0.5
退職手当支給額（B）（注1）	千円 1,789,841	千円 1,225,385	千円 564,456	% 46.0
非常勤役職員等給与（C）（注2）	千円 12,676,209	千円 12,587,916	千円 88,293	% 0.7
福利厚生費（D）（注3）	千円 6,176,872	千円 6,088,230	千円 88,642	% 1.4
最広義人件費（A + B + C + D）	千円 50,748,728	千円 49,842,328	千円 906,400	% 1.8

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役職員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

平成30年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、15年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたことを本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、平成30年度決算を報告します。

本後援会は、会員の皆様からの拠出金をもとに、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援、留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援、留学生の疾病等に対する経済的支援、留学生の不測の事故等に対する経済的支援、留学生を支援する団体に対する経済的支援を主な事業として活動しています。

これらの事業を継続的・安定的に運営するために、是非ご加入くださいますよう、また加入口数を増加していただけますようお願い申し上げます。加入についてのお問い合わせは学務部学生支援課をお願いします。

なお、皆様の会費は北大フロンティア基金の寄附金として取り扱うこととなっており、年2千円を超える場合は税法上の優遇措置を受けることができます。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(学務部学生支援課)

平成30年度 北海道大学外国人留学生後援会 決算報告書

自) 平成30年4月1日
至) 平成31年3月31日

1. 収入の部

(単位 円)

事 項	予算額	決算額	備 考
前年度からの繰越	44,649,082	46,735,140	
会費	2,466,000	2,286,000	6月期徴収額 1,149,600 12月期徴収額 1,136,400
立替払返戻金	0	0	
一時金貸付金返戻金	0	0	
収 入 合 計	47,115,082	49,021,140	

2. 支出の部

(単位 円)

事 項	予算額	決算額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	弁護士相談 0 退去時精算 0
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	500,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	一時貸付金
留学生を支援する団体に対する経済的支援	1,000,000	355,801	北海道大学国際婦人交流会
その他		96,940	
予備費	37,115,082	0	
支 出 合 計	47,115,082	452,741	

3. 差引額

(単位 円)

翌年度に繰越	-	48,568,399	
--------	---	------------	--

新たな「オープンアクセス方針」を策定

研究成果をインターネットで公開し誰もが無償で自由に利用可能にすること（オープンアクセス化）は、学術研究活動における本学の影響力向上に役立ちます。

これまで本学では学術成果コレクションHUSCAPの運営方針の中で「(研究成果の公開を) 強く奨励する」と謳い、オープンアクセスにかかる本学の方針として運用してきました。しかし、オープンアクセスジャーナルの増大や分野別のリポジトリの整備等によりオープンアクセスの実現方法が多様化してきたこと、公的な資金により得られた研究成果をオープンアクセスとすることが助成機関から求められるようになったこと等、近年状況が変化してきました。そこで、この度これらに対応した「北海道大学オープンアクセス方針」を新たに策定しました。

旧方針からの主な変更点は以下の3点で、全文はHUSCAPのサイト（以下URL）で公開しています。

<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/staff/oa-policy.jsp>

- ①HUSCAPの運営方針から、大学全体のオープンアクセス方針として策定し直したこと
 - ②研究成果の公開について、「強く奨励する」から「原則公開」としたこと（著作権その他やむを得ない理由があるものを除く。）
 - ③公開の方法について、HUSCAP以外の方法（オープンアクセスジャーナルでの公開等）も選択可能としたこと
- 今後も附属図書館は、関係部署と連携し、研究成果等のオープンアクセス化を推進していく予定です。

（附属図書館）

夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における連続休暇取得の奨励及び省エネルギー対策のため、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

記

1. 実施期間・体制について

期 間：8月14日（水）～18日（日）

（工学系事務部各課は、併せて、8月13日（火）も閉室します。）

体 制：原則として休日の期間と同様の体制とします。

2. 郵便物・宅配便について（8月10日（土）～8月18日（日））

郵便物：局留となりますので、受領及び発送等の取扱いは、8月19日（月）からとなります。

宅配便：原則として宅配業者にて保管となります。

3. 緊急時の体制について

緊急時の対応は、原則として「夜間、休日等における緊急連絡体制」によります。

詳細については、工学系事務部総務課（TEL:011-706-6115）までお問い合わせください。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究院、
量子集積エレクトロニクス研究センター）

■ 博士学位記授与

6月28日（金）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は16人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は0人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

課程博士

博士の専攻 分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名		
	氏 名				
博士（文学）	チョウ 張	キ 輝	有島武郎文学の研究―女性を書くこと― 主査：教授 中村 三春		
博士（法学）	チュ 崔	ソク 碩	ジン 鎮	戦後日本の地方議員の政党化に関する研究―都道府県議会の無所属議員を中心として― 主査：教授 空井 護	
博士（医学）	たか 高	しま 島	しょう 翔	た 太	CRISPR/Cas9システムを用いた劣性栄養障害型表皮水疱症の新規遺伝子治療法の開発 主査：准教授 矢部 一郎
	ます 益	だ 田	さき 紗	きこ 季子	生体試料を用いた好中球細胞外トラップの検出とその応用 主査：教授 清野 研一郎
	み 宮	やうち 谷内	けん 健	こ 吾	CHP-MAGE-A4がんワクチン患者における免疫応答拡大の意義に関する研究 主査：教授 小林 弘一
	よこ 横	やま 山	え 絵	み 美	KRP203短期投与と移植後シクロフォスファミド大量療法併用による移植片対宿主病の予防 主査：教授 橋野 聡
	わ 和	だ 田	まさ 雅	たか 孝	CHP-MAGE-A4がんワクチン臨床試験患者における末梢血CD4+CD25+FOXP3+制御性T細胞比率の臨床的意義に関する研究 主査：准教授 北村 秀光
博士（情報科学）	カ サ ウ カ Dabwitso ダブイソ Kasauka		A Study on Acceleration of Image Smoothing and FPGA Implementation of Image Enhancement and Haze Removal as an Application of Image Smoothing （画像平滑化の高速化ならびにその応用としての画像輝度補正およびヘイズ除去のFPGA実装に関する研究） 主査：教授 宮永 喜一		
博士（水産科学）	ささ 笹	おか 岡	ゆき 友	ほ 季穂	チョウザメ未利用部位由来コラーゲン・ペプチドの調製および血糖上昇抑制作用に関する研究 主査：教授 佐伯 宏樹
博士（農学）	リー 李	ヨン 容	ゴン 鍵	健	韓国酪農における要素投入構造と技術進歩に関する計量経済学的研究 主査：教授 近藤 巧
博士(国際広報メディア)	か 加	とう 藤	やす 康	こ 子	趣味縁の研究～札幌のOYOYOゼミと前橋〇〇部の事例から～ 主査：准教授 田邊 鉄
博士（保健科学）	とみ 富	はら 原	とも 朋	み 美	Studies on the changes of oxidative stress and autophagy in the hearts of streptozotocin-induced early diabetes rats, and the improvement effects by azuki bean (<i>Vigna angularis</i>) extract （ストレプトゾトシン誘導初期糖尿病ラットの心臓における酸化ストレスおよびオートファジーの変化と小豆抽出物による改善効果に関する研究） 主査：教授 恵 淑萍
博士（工学）	いま 今	で 出	ゆう 悠	た 太	Gigahertz acoustic modulation of plasmonic nanostructures （ナノスケールのプラズモニク構造におけるギガヘルツ音響変調） 主査：教授 Wright Oliver Bernard
	サルン Sarun チャトゥンヤキット Chattunyakit		Self-recovery Strategy for Multi-legged Robot with Damaged Legs （故障脚を有する多脚型ロボットの自己復帰手法） 主査：教授 小林 幸徳		
	たか 高		はし 橋	はや 駿	と 人
博士（理学）	おか 岡	だ 田	なく 拓	Laurallene の不斉全合成 主査：教授 鈴木 孝紀	

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学日時給職員の特別の有給休暇に関する規程

(令和元年6月26日海大達第142号)

天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律（平成30年法律第99号）の規定により休日の日数が増加したことに伴い、賃金の減少が生じる職員に、特別の有給休暇を付与することについて、所要の定めを行ったものです。

北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程

(令和元年6月26日海大達第143号)

観光学高等研究センターの観光連携研究部に置く部門の廃止に伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和元年7月1日海大達第144号)

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第146号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第147号)

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第153号)

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第155号)

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第156号)

本年7月1日付けで、本学に人間知・脳・AI研究教育センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第145号)

大学院保健科学研究院及び医学研究院に置く分野の新設に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第148号)

本年7月1日付けで、インテグレイテッドサイエンスプログラムの副プログラム長の選出について見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(令和元年7月1日海大達第149号)

国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第152号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、特別拠点手当を新設することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学役職員倫理規程等の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第150号)

本年7月1日に工業標準化法（昭和24年法律第185号）が改正されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第151号)

本学創成研究機構化学反応創成研究拠点において、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の事業推進に従事する者に対して、業務の特殊性、国際性等を鑑み、特別拠点手当を新設することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第154号)

本年7月1日付けで、人間知・脳・A I 研究教育センターを設置すること及び工業標準化法（昭和24年法律第185号）が改正されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第157号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び削除並びに負担金の変更を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程

(令和元年7月1日海大達第158号)

アイヌ・先住民研究センターにおいて、研究生の受入れを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学人間知・脳・A I 研究教育センター規程

(令和元年7月1日海大達第159号)

北海道大学人間知・脳・A I 研究教育センター運営委員会規程

(令和元年7月1日海大達第160号)

本年7月1日付けで、本学に学内共同施設として北海道大学人間知・脳・A I 研究教育センターを設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和元年6月10日）

議 案・基幹経費化の方針について

- ・令和元年度教育関係共同利用拠点の認定申請について
- ・第3期中期目標期間4年目終了時評価の実施体制等について

協議事項・平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

- ・本学オープンアクセス方針の策定について
- ・平成30年度決算について
- ・令和元年度部局評価配分事業について
- ・2020年度概算要求事項について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・平成30年度資金の運用状況について

- ・キャンパス・クリーン・デーの実施結果について
- ・令和元年度学長裁量経費について
- ・総長室等事業推進経費について（平成30年度実績報告及び令和元年度計画）

経営協議会（令和元年6月18日）

議 題・平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

- ・平成30年度決算について
- ・2020年度概算要求事項について
- ・特別拠点手当の新設について
- ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・平成30年度における本学の増収・経費削減に係る取り組みについて

- ・産学連携の取り組みについて
- ・平成30年度資金の運用状況について

そ の 他・「平成30年度北海道大学ファクトブック」について

教育研究評議会（令和元年 6 月19日）

議 題・平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

- ・ 本学オープンアクセス方針の策定について
- ・ 2020年度概算要求事項について
- ・ 諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・経営協議会の学外委員について

- ・ 「北海道大学緑のピアガーデン2019」及び「北海道大学緑のジンギスカンWine&Beer2019」の開催について
- ・ 全学運用教員の措置について
- ・ 産業創出講座等の設置について
- ・ 寄附講座等の設置について

役員会（令和元年 6 月25日）

議 案・平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

- ・ 本学オープンアクセス方針の策定について
- ・ 特別拠点手当の新設について
- ・ 平成30年度決算について
- ・ 令和元年度部局評価配分事業について
- ・ 就業規則関連規程の一部改正について
- ・ 就業規則関連規程の制定について
- ・ 諸規則の制定及び一部改正について
- ・ 令和元年度内部統制システムモニタリングテーマ候補について
- ・ クロスアポイントメントの適用について
- ・ 令和 2 年度（2020年度）概算要求施設整備事業について

報告事項・岩見沢市及びNTTグループ 3 社との間における連携協定締結について

- ・ 役職員の報酬・給与等の水準の公表について
- ・ 令和元年度会計監査人の選任について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■人事

令和元年6月13日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和3年6月12日まで） （期間：令和3年6月12日まで）	町 田 隆 敏 真 弓 明 彦	札幌市副市長 北海道電力（株）取締役社長、北海道経済連合会会長

令和元年6月17日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和3年6月16日まで）	土 屋 俊 亮	北海道副知事

令和元年6月29日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部長】 （転出） 文部科学省大臣官房付	野 田 昭 彦	国際部長

令和元年6月30日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【課長・事務長・室長】 （任期満了）	若 月 桂 一	財務部主計課財務管理室長

令和元年7月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 人間知・脳・A I 研究教育センター長 （期間：令和3年3月31日まで）	田 口 茂	大学院文学研究院教授
【教授】 大学院理学研究院教授 北海道大学病院教授 北極域研究センター教授 国際連携研究教育局・北海道大学病院教授	行 木 孝 夫 木 下 一 郎 森 木 亮 近 藤 英 司	大学院理学研究院准教授 大学院医学研究院准教授 総務省石川行政評価事務所長 北海道大学病院教授
【部長】 国際部長	太 田 裕 美	国際部国際企画課長
【課長・事務長・室長】 財務部主計課財務管理室長 国際部国際企画課長	野 田 卓 司 羽 澤 明 文	北洋銀行地域産業支援部管理役 国際部国際企画課課長補佐

新任部局長等紹介

令和元年7月1日付

人間知・脳・A I 研究教育センター長に



たぐち しげる
田口 茂 教授

令和元年7月1日付けで人間知・脳・A I 研究教育センターが設置され、人間知・脳・A I 研究教育センター長に田口茂教授が発令されました。

任期は、令和3年3月31日までです。

略 歴

平成3年3月 早稲田大学第一文学部卒業
 平成5年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了
 平成8年4月 } 早稲田大学第二文学部助手
 平成10年3月 }
 平成15年9月 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
 平成15年11月 ヴッパータール大学人文学・文化科学部博士課程修了
 平成15年11月 哲学博士（ヴッパータール大学）
 平成17年10月 山形大学地域教育文化学部助教授
 平成19年4月 山形大学地域教育文化学部准教授
 平成24年4月 北海道大学大学院文学研究科准教授
 平成30年4月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成31年4月 北海道大学大学院文学研究院教授

新任教授紹介

令和元年7月1日付



理学研究院教授に

なみ き たか お
行木 孝夫 氏

数学部門数学分野

生年月日

昭和42年9月26日

最終学歴

東京大学大学院数理科学研究科博士課程中退(平成7年3月)
博士(理学)(北海道大学)

専門分野

力学系・エルゴード理論



北海道大学病院教授に

きのした いちろう
木下 一郎 氏

がん遺伝子診断部

生年月日

昭和37年8月18日

最終学歴

北海道大学医学部医学科卒業(昭和63年3月)
博士(医学)(北海道大学)

専門分野

がんゲノム医療学, 腫瘍内科学



北極域研究センター教授に

もり き あきら
森木 亮 氏

研究部環境工学研究グループ

生年月日

昭和39年生まれ

最終学歴

京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了(平成2年3月)
工学修士(京都大学)

専門分野

港湾施設, 港湾計画, 物流, 地域開発

新任部課長等紹介

令和元年7月1日付



国際部長に

おおた ゆみ 氏
太田 裕美 氏



財務部主計課財務管理室長に

のだ たくじ 氏
野田 卓司 氏

昭和35年4月生

昭和58年6月 釧路工業高等専門学校
昭和59年12月 旭川医科大学
平成4年4月 北海道大学
平成12年4月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成14年4月 北海道大学学務部留学生課専門職員
平成16年4月 北海道大学学術国際部留学生交流課留学生交流掛長
平成17年4月 北海道大学医療技術短期大学部庶務係長
平成18年4月 北海道大学医学部事務課庶務第二係長
平成18年7月 北海道大学学術国際部国際企画課国際企画係長
平成21年4月 北海道大学学術国際部国際企画課課長補佐
平成22年7月 北海道大学国際本部国際連携課課長補佐
平成23年4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐
平成26年4月 北海道大学工学系事務部総務課長
平成30年4月 北海道大学学務部キャリア支援課長
平成30年7月 北海道大学国際部国際企画課長

昭和44年9月11日生

平成4年3月 北海道大学法学部卒業
平成4年4月 北海道拓殖銀行琴似支店
平成10年11月 北洋銀行北広島団地支店
平成18年1月 北洋銀行真駒内中央支店課長
平成21年11月 北洋銀行北見中央支店次長
平成24年4月 北洋銀行清田西支店副支店長
平成27年4月 北洋銀行地域産業支援部調査役
((社)北海道観光振興機構出向)
平成29年4月 北洋銀行地域産業支援部管理役



国際企画課長に

はざわ あきふみ 氏
羽澤 明文 氏

昭和40年7月14日生

昭和59年3月 北海道札幌啓成高等学校卒業
昭和62年4月 北海道大学教育学部
平成3年4月 北海道大学工学部経理課
平成7年4月 北海道大学大学院地球環境科学研究科
平成9年4月 北海道大学農学部附属演習林
平成12年4月 北海道大学工学研究科・工学部経理課
平成15年4月 北見工業大学会計課総務係長
平成18年4月 北海道大学学術国際部研究協力課専門職員
平成19年7月 国立日高青少年自然の家事業支援課管理係長
平成21年4月 北海道大学工学系事務部経理課係長
平成24年7月 北海道大学財務部調達課係長
平成25年7月 室蘭工業大学財務グループコーディネーター
平成27年7月 北海道大学研究推進部研究支援課課長補佐
平成28年10月 北海道大学国際部国際企画課課長補佐

編集メモ

●盛夏を迎え、夏を感じられるような暑い日が多くなりました。7月中旬から下旬に開催した「緑のビアガーデン2019」「緑のジンギスカンWine&Beer 2019」には多くの方々がお越しになられ、爽やかなキャンパスの中で夏のひと時を過ごしていました。

●4月に東京で開催されたハルトプライズ地域予選において、本学の学生4人からなるチーム「アクアモウ（AQUAMOU）」が、日本の大学チー

ムとして初めて優勝しました。ハルトプライズ（Hult Prize）は、ハルトプライズ財団が主催する世界最大の学生企業アイデアコンペで、2009年より毎年開催されているものです。アクアモウは全世界の地域代表40チームの1つに選ばれるという快挙を成し遂げ、7月末からロンドンで開かれている合宿に参加しています。本戦出場を目指す彼らを、皆様も応援していただけたら幸いです。



2019.6.30 札沼線 本中小屋～中小屋（当別町）

北の鉄道風景 76 豊穣の水田地帯

札幌市の北東方、石狩川下流右岸の江別市、新篠津村、当別町および月形町にまたがる平野部を篠津地域という。ここはかつて泥炭湿原が一面に広がる不毛の原野であった。第二次世界大戦の終戦後、食料増産を目的とした国家的プロジェクト「篠津地域泥炭地開発計画」が策定され、同地域において大規模な泥炭地水田開発が進められた。その結果、不毛の泥炭原野であった篠津地域は、豊穣の水田地帯に

変貌した。写真は篠津地域の水田地帯を背景に、札沼線を往くローカル列車である。令和2年5月6日をもって北海道医療大学駅以北の末端区間が廃止される予定の札沼線。壮大な鉄道風景がまた北の地から消えようとしている。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ⑦ No.784 令和元年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>